

保健婦の窓

「歩け歩けて体力づくり」

運動不足の現代人は下半身から弱っていくといわれています。今回は、それに対抗するために「歩くこと」をもう一度みなおしてみよう。

- ①歩くことは足だけでなく全身の筋肉が働くので、血液の循環をよくし、筋肉に持久力がつきます。特に中壮年以上の方の老化防止に有効です。
- ②歩くと疲れると思っている人もいかもしれませんが、激しい運動と違って疲労の蓄積も少なくあまり疲れないものです。
- ③歩くとき汗をかき、食欲が増し新陳代謝が促進され、適度の疲労でよく眠れますから健康的です。
- ④歩き方としては、ぶらぶら散歩のものよいことです。速度を変えるだけでだいぶ条件が違ってきますから1分間120歩～140歩くらいの速さで元氣よく歩いてみましょう。できれば毎日一定時間「初めトロトロ中パッパ」というご飯の炊き方の要領でだんだんに速度を早め距離をのびせてみてください。

税務相談室を開設

国税庁ではいろいろな税の知識を国民各層の方に知っていただくため、11月11日から17日まで「税を知る週間」として諸行事を行います。この行事のひとつとして、鷹巣町国民公会館で開かれる第9回秋田県種苗交配会会場3階に「税務相談室」を開設しますので多数のご利用をお待ちしています

記

期間 11月7日～13日

プロパンガスに注意ノ

プロパンガスは、大変便利なものですが、油断すると、火災あるいは一酸化炭素中毒など思わぬ事故を起こすことがあります。

毎年多くの事故が発生しており、そのほとんどが取扱者の不注意のためにおきます。次のことに注意し、プロパンガスの事故を防ぎましょう。

- ◆使用後、外出時、就寝前には必ず元栓閉める。
- ◆不完全燃焼に注意する。元栓やガス器具、ゴムホースの接続は必ずホースバンドで締める。
- ◆ガス使用するときは、時々窓を開けるなど換気気をつける。

※ガスが漏れているときは、元栓や器具のコックを閉め、付近の火気を一切消し、窓や戸を全部開けて換気をよくしてください。

「安藤昌益」は二井田で没した？

市史編さん室の解明すすむ

特 異な思想家、安藤昌益は20世紀に入るまで「忘れられた思想家」であった。「忘れられた」のは、昌益が同時代人に推測できないほどの豊かな社会的、人間的状況を取り出した思想家だからであるとされている。

昌益が名だたる思想家であることを発見し、また、昌益の主要著作の発見と収集につとめたのは昌益の研究者としての狩野亨吉氏(本市出身)であった。

昌益は、危険な思想家であるともいわれていたが狩野氏は「かれ安藤の如きは無政府虚無主義などを振廻して喧嘩をするのは子どものする事で、何も大人が子どもの真似をして、打ったのはいたのという苦々しい経験をする必要はないとみている」と、昌益の見解は階級闘争の否定だと主張しているのが注目されている。

さて今年に入って安藤昌益が国内の研究者たちの間に注目をあび、その論説が新聞紙上にぎわっていることは皆さんもすでにご承知のことと思う。このきっかけとなったのは、本市の市史編さん室が編さん事務段階で、二井田の一関修也氏(二井田出張所長)宅の古文書の中から、市史編さん委員石垣忠吉氏の解説により安藤昌益の晩年に関する資料を発見したことに端を発する。

その文書は、「守農太神龍堂良中先生在雲の石碇銘」と明和元年の二井田村の掠職の手記と思われる「掠職手記」(かすみしよくしゆき)がこれである。

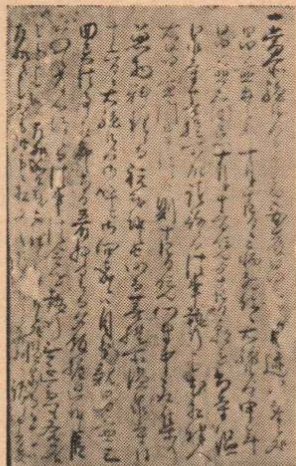
掠職手記の書き出しに「当所孫左衛門と申者安藤昌益目録二御座候処、昌益午之年十月十四日に病死仕候。」とあることに注目した市史編さん室は、さっそく二井田の温泉寺で、お寺の過去帳「十四日」の丁に当たって見たところ、この丁に「昌安久益士。宝暦十二年十月。下村、昌益老。」とあることを発見し、さらに、お寺の西側に昌益の墓と思われる高さ55センチ、幅22センチ、厚さ14センチの墓を確認した。

空
昌安久益信士
十月十四日
位

宝暦十二年
昌安久益信士
位

墓は、200余年の風雪にさらされていたせいもあり完全に読みとることができないが、市史編さんの係員が拓本をとったところ左のように読みとることができた。

これら一連の昌益に関する資料等の発見から、昌益は二井田で晩年を過ごし、



一関家で発見された掠職手記の一部

二井田で死去した、ということが立証できると思し、昌益の子孫といわれる現安藤義雄氏宅(孫左エ門の家)の系譜からしても二井田での死去は真偽よう性が非常に高く、死亡地について有力な発見であるといえる。

また、今度の昌益に関する晩年の資料の発見を契機に、定説となっていた昌益の江戸出生説にも疑問視がはじまり、なかでも大阪産業大助教授の三宅正彦氏は昌益の著作は、音韻、語義ともに強烈な東北方言で貫かれていて、言語の形成期を江戸で過したものの文章とは思えない。また、その著書「自然真営道」の小序には、昌益は「和邦偏部」の出身とあり、この偏部は東北地方と断定できる、としていることから、今後の昌益研究にあたっては、慎重を期さねばならないとしている。

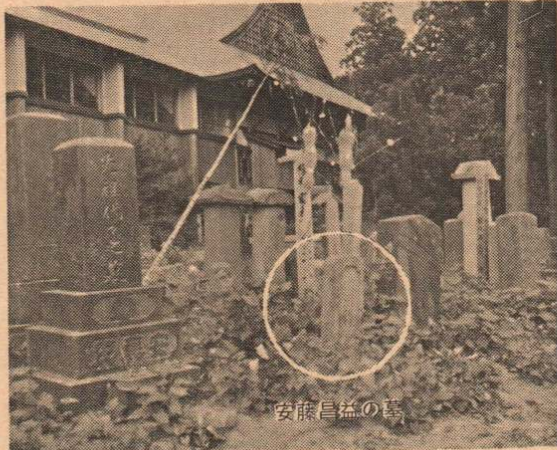
市史編さん室では、昌益の資料発見という大ヒットを喜びながらも、これからも昌益の研究を継続し、近い将来、昌益の出生地、その経歴、晩年の生活等を明らかにし、市民の皆さんに公表することになっている。

＜安藤昌益＞

18世紀の思想家。明治32年頃、本市出身の狩野亨吉氏(理学、文学博士・一高校長、京大文科大学学長等を歴任、昭和17年12月、80歳で没)が昌益の著書である「自然真営道」を入手、その思想的意義を高く評価したことに端を発し、学界の注目をあびるようになったが太平洋戦争後、ハーバート・ノーマンの「忘れられた思想家——安藤昌益のこと——」(岩波新書)が出版され、この時から昌益の思想は広く社会に知られるようになった。

その思想は、労働主位自然中心説をとり、宇宙や人体を「活真」一元で統一し、労働国家を説き自然回帰をと考えた。昌益は、秋田で生れて医学を学び、八戸で開業したという説が有力であったが、戦後の説としては、昌益は宝永4年(1707)に旗本、松平縫殿助忠茂の家臣、中村三郎右エ門の二男として江戸で生れ名を三之丞と称し、享保4年に八戸藩医田戸田作庵の養子になって「正益」と名のり享保8年ごろ離縁されて秋田に移りさらに、八戸に移転して町医者として開業、宝暦5年(1755)八戸で餓死したのではないか、という説もある。しかし、一関家に保存されている掠職手記の発見により、二井田で死没したということが有力視され、さらには、その出生地が秋田であるらしくその信憑性もいづれ市史編さんの段階で明らかにされることと思う。

代表作には未刊の稿本「自然活真営道」101巻93冊、「自然真営道」「統道真伝」などがある。



安藤昌益の墓

△二井田温泉寺と昌益の墓△

出稼ぎ者の皆さんへ

＜地域相談員を委嘱＞
市では出稼ぎ者および留守家族の相談就労動向等を進めるため、市内地域相談員としてつぎの方々を委嘱しました。

- 菅原 隆二氏(山館)
(大館・上川沿・下川沿地区担当)
- 滝沢 敬一氏(城西町)
(十二所・二井田・真中地区担当)
- 富樫 嘉明氏(板沢)
(花矢・長木・釈迦内地区担当)

＜土木課＞

グレーダーを購入

冬の降雪の季節が近づいてまいりましたが、市役所では、昨年のような豪雪に備え、グレーダー1台を購入しました。

これで、市には、グレーダー2台、タイヤ・ローダー1台、除雪ダンプ1台の計5台なり、今年の冬はフル回転させ、市民の皆さんの冬の降雪による交通難を解消するために全力をあげるつもりです。

(写真はこのほど購入したグレーダー)

